令和４年度事業計画

自　令和４年　４月　１日
至　令和５年　３月31日

前年度においては当財団で、代表理事が２代続いて変わり、令和３年度において目指した事業に空白を余儀なくされました。
今は新理事長の下で引き続き研究開発の発展を進めるべく研究者・研究員の人選、及び新理事の参加等をも迎えて取り組んでおります。

1, 代表理事であり、研究者でもあった海老名先生の確立した、抹梢血由来CD56陽性細胞の腫瘍細胞に対する殺細胞効果を発展させた新免疫細胞BAK療法を検証して確立させる。その研究は研究所長の岡本正人及び補充する研究者・研究員で行う。

2, 近年、癌をはじめ様々な疾患において、患者自身の免疫状態が極めて重要な役割を果たしている事が明らかになっている。患者並びに疾患予備軍の健常者（未病）において免疫状態を数値化することは、治療並びに生活習慣の改善において非常に有効である。この免疫機能解析検査技術を仙台微生物研究所にて岡本が確立する。

3, 上記の免疫機能検査結果を踏まえて、個々の患者にとって有用な、次世代の個別的免疫療法の研究・開発（特許申請と臨床応用）を研究所長の岡本が進める。

4, ベトナム国等の海外及び国内医療機関に置いても培養技術の取得を望むところへ技術指導を実施する機能の構築を整える。

5, インターネットホームページを改修して県民の保健衛生の向上に寄与するとともに、新たな研究者も募り当財団の充実と実績を高める活動をする。

6, 初代理事長石田名香雄博士並びに海老名卓三郎博士の功績をたたえ、微生物学・免疫学腫瘍学・公衆衛生学の分野で、卓越した業績を挙げ、今後もこの分野の研究を推進する若手研究者を顕彰する「石田・海老名記念北斗医学賞」の第10回受賞者を選出し、授賞式を行う。